

平成21年度 入学式 式辞

砂川市立石中学校長 高瀬裕二



春の陽差しがまぶしく降り注ぐ今日。

平成21年度、砂川市立石山中学校の入学式を挙行できますことは、誠に意義深く喜ばしい限りであります。

本日の入学式に当たり、砂川市教育委員会をはじめ、地域の皆様方、北光小学校、空知太小学校、砂川高等学校の校長先生など多数のご来賓の方々のご臨席をいただきましたことに、高い壇上からではありますが、厚くお礼申し上げます。

さて、ただ今、呼名されました48名の皆さんは、今日から砂川市立石山中学校の1年生です。新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

今、皆さんの瞳は、輝いているように見えます。それは、これから始まる中学校生活への緊張感と希望にあふれているからでしょう。

皆さんが入学した石山中学校は、古くから栄えたこの地区にあって、素晴らしい伝統と校風をもつ学校です。この石山中学校の生徒であるという誇りと自覚をもって、これからの3年間で過ごして欲しいと思います。

中学校での生活は小学校のときとは大きく変わります。少しずつ慣れていって欲しいのですが、中学校の3年間は、小学校の6年間とは違って、うっかりしているとあっという間に過ぎてしまいます。出だしの方向を間違えてしまうと、気がついたときには手遅れということにもなりかねません。そこで、後で後悔しない充実した中学校生活を送ってもらうために、先ほど歌った校歌より、3つの心構えを話し致します。2番の歌詞を思い出してください。

星影に 叡智を磨き
風雪に からだ鍛えて
けがれなき ところひとすじ
とこしえの理想をめざす
のぞみあり
われらいま 足なみそろえ
新しき 未来を拓く

まず第一、「星影にえい智を磨く」とは、北の空に輝く一点の星、北極星のきらめく光を仰いで優れた知恵を磨くことです。学校は勉強するところです。毎時間の授業に集中し、100%理解し、身につけようとする気迫と気力を、持ち続けて下さい。心も体も成長の著しい皆さんは、吸収する力も旺盛で一番学力のつく時です。授業に真剣に取り組み、予習も復習もしっかりやって下さい。そのこと

が自信につながり、自分の素晴らしさを発見できることになります。「中学生は勉強する」ことを忘れないで下さい。

第二、「風雪にからだきたえて」とは、北国の寒い風や冷たい雪に耐えて、強い身体をつくるということです。

人生八十年という時代を迎え自分の体は自分で管理すると言うことが大切です。人間は健康でなければ何もできません。「勉強する」ことも「他人のことを思いやる」心の余裕も持てません。自分を甘やかさず、部活動にも積極的に取り組んで、自分の人生を支える強い体を中学校時代につくるのだという決意と努力を積み重ねて下さい。

第三、「けがれなき心ひとすじとこしえ（永久）の理想をめざす」とは、人類の永遠の理想を目指す豊かな心の持ち主になってほしいということです。文明の進歩は、物が豊富で便利な社会を作りましたが、心の貧しさを生んだと言われています。これからの国際社会で活躍する皆さんは「豊かな心」「思いやりの心」を持ちたいものです。毎日の生活の中でしっかり挨拶をし、クラスや班や友人と協力しあい、励まし合い、責任を果たすなどの体験を通して、自立心を養い、互いの人格を尊重して行って下さい。互いの、心と心のキャッチボールを通して苦しみ、悲しみなどの人の心の痛みがわかる心の温かい人になるよう心がけて下さい。

「えい智を磨く」「からだを鍛える」「けがれ無き心を目指す」ことが校歌に謳われた、石山中学校生活を送る基本です。

先人達は、人間は「頭脳と心とからだ」の三つからなっていて、互いに糸で結ばれていると述べています。この糸がしっかり張れたとき人間として立派に成長できるのです。入学にあたってこのことをしっかり頭に入れ、北の空に輝く、決して明るくはないが、一点の星、北極星の如く、軸を定め、自ら光り輝く中学校生活が送れるように頑張ってください。

さて二、三年生の皆さん、後輩が希望に燃え、大きな期待を持って入学して参りました。喜びと不安がいっぱいです。どうか新入生の良き相談相手として、優しく指導し、先輩として良き手本を示して共に楽しい学校生活が送れるよう頑張ってください。

さて、最後になりましたが、終わりに、保護者の皆様に申し上げます。本日より大切なお子様をお預かりいたします。本校全教職員が一致協力して皆様の期待にそうよう努力するとともに学校も家庭も教育者同士という立場に立って連携を密にし、一人ひとりの生徒を心豊かな人間に育てていきたいと思っております。昨日より今日、今日よりあした、と着実に前進していくことを期待して式辞いたします。